

平成 30年 07月 09日

国土交通大臣 殿

地域型住宅グリーン化事業 適用申請書

【平成30年度】

本申請書の内容により、地域型住宅グリーン化事業の適用を申請します。
この申請書及び添付資料に記載の事項は、事実と相違ありません。

地域型住宅の名称

京都ウッドマイレージ住宅

グループの名称

Made in Kyoto 住宅研究会

直近採択グループ番号

06-0194-0515

(グループ代表者)

代表者名

早川 武伸

代表者印

代表者所属先

早川合板株式会社

代表者所在地

京都府京都市伏見区横大路下三栖辻堂町87

代表者電話番号

075-601-7271

(グループ事務局)

事務局事業者名

早川合板株式会社

事務局担当者名

田中 啓介

印

事務局郵便番号

612-8241

事務局所在地

京都府京都市伏見区横大路下三栖辻堂町87

事務局電話番号

075-601-7271

事務局FAX

075-601-7273

事務局担当者E-mail

tanaka@gouhan.com

B. 平成30年度における補助対象の木造住宅 の申請要望戸数、地域材加算要望戸数、 三世代同居対応加算要望戸数(必須)	長寿命型	長期優良住宅	経験工務店(4戸(8戸)以上)の申請戸数	今年度要望する戸数(上限100万円)		戸	
				加算申請	上記の内、地域材加算を要望(上限20万円)	戸	
					上記の内、三世代同居加算を要望(上限30万円)	戸	
				その内9月までに交付申請が確実にできる戸数(上限100万円)		戸	
				加算申請	上記の内、地域材加算の申請が確実(上限20万円)	戸	
					上記の内、三世代同居加算の申請が確実(上限30万円)	戸	
	長寿命型	長期優良住宅	未経験工務店(3戸(7戸)以下)の申請戸数	今年度要望する戸数(上限110万円)		18 戸	
				加算申請	上記の内、地域材加算を要望(上限20万円)	9 戸	
					上記の内、三世代同居加算を要望(上限30万円)	1 戸	
				その内9月までに交付申請が確実にできる戸数(上限110万円)		5 戸	
				加算申請	上記の内、地域材加算の申請が確実(上限20万円)	3 戸	
					上記の内、三世代同居加算の申請が確実(上限30万円)	0 戸	
	高度省エネ型	認定低炭素住宅	経験工務店(4戸(8戸)以上)の申請戸数	今年度要望する戸数(上限100万円)		6 戸	
				加算申請	上記の内、地域材加算を要望(上限20万円)	4 戸	
					上記の内、三世代同居加算を要望(上限30万円)	1 戸	
				その内9月までに交付申請が確実にできる戸数(上限100万円)		3 戸	
				加算申請	上記の内、地域材加算の申請が確実(上限20万円)	3 戸	
					上記の内、三世代同居加算の申請が確実(上限30万円)	0 戸	
		高度省エネ型	性能向上計画認定住宅	未経験工務店(3戸(7戸)以下)の申請戸数	今年度要望する戸数(上限110万円)		3 戸
					加算申請	上記の内、地域材加算を要望(上限20万円)	3 戸
						上記の内、三世代同居加算を要望(上限30万円)	1 戸
					その内9月までに交付申請が確実にできる戸数(上限110万円)		1 戸
					加算申請	上記の内、地域材加算の申請が確実(上限20万円)	1 戸
						上記の内、三世代同居加算の申請が確実(上限30万円)	0 戸
高度省エネ型	ゼロ・エネルギー住宅	経験工務店(4戸(8戸)以上)の申請戸数	今年度要望する戸数(上限100万円)		1 戸		
			加算申請	上記の内、地域材加算を要望(上限20万円)	1 戸		
				上記の内、三世代同居加算を要望(上限30万円)	0 戸		
			その内9月までに交付申請が確実にできる戸数(上限100万円)		0 戸		
			加算申請	上記の内、地域材加算の申請が確実(上限20万円)	0 戸		
				上記の内、三世代同居加算の申請が確実(上限30万円)	0 戸		
高度省エネ型	ゼロ・エネルギー住宅	未経験工務店(3戸(7戸)以下)による申請戸数	今年度要望する戸数(上限110万円)		1 戸		
			加算申請	上記の内、地域材加算を要望(上限20万円)	1 戸		
				上記の内、三世代同居加算を要望(上限30万円)	0 戸		
			その内9月までに交付申請が確実にできる戸数(上限110万円)		1 戸		
			加算申請	上記の内、地域材加算の申請が確実(上限20万円)	1 戸		
				上記の内、三世代同居加算の申請が確実(上限30万円)	0 戸		
高度省エネ型	ゼロ・エネルギー住宅	経験工務店(4戸(8戸)以上)による申請戸数	今年度要望する戸数(上限125万円)		5 戸		
			加算申請	上記の内、地域材加算を要望(上限20万円)	3 戸		
				上記の内、三世代同居加算を要望(上限30万円)	1 戸		
			その内9月までに交付申請が確実にできる戸数(上限125万円)		2 戸		
			加算申請	上記の内、地域材加算の申請が確実(上限20万円)	1 戸		
				上記の内、三世代同居加算の申請が確実(上限30万円)	0 戸		
高度省エネ型	ゼロ・エネルギー住宅	未経験工務店(3戸(7戸)以下)による申請戸数	今年度要望する戸数(上限140万円)		5 戸		
			加算申請	上記の内、地域材加算を要望(上限20万円)	2 戸		
				上記の内、三世代同居加算を要望(上限30万円)	1 戸		
			その内9月までに交付申請が確実にできる戸数(上限140万円)		2 戸		
			加算申請	上記の内、地域材加算の申請が確実(上限20万円)	1 戸		
				上記の内、三世代同居加算の申請が確実(上限30万円)	0 戸		
C. 平成30年度当初予算における補助対象の優良建築物の申請要望棟数及び床面積	優良建築物の申請棟数		今年度要望する棟数及び面積		0 棟	/	
		その内9月までに交付申請が確実にできる棟数及び面積		0 棟	/		
D. 当提案が採択された場合の各住宅事業者における補助対象戸数の配分ルール(必須)	基本的には申込先着順とする。施主名、住所、電話番号、現場住所、着工予定日、竣工予定日、プラン提出予定日等を明記の上FAXIによる予約申込。予約日から1か月以内にプラン提出等の無い場合予約取消し再募集。						
E. 平成29年度の執行状況(必須)	長寿命型(長期優良住宅)						
	採択戸数	3 戸	交付申請戸数	1 戸	完了実績(竣工予定含む)戸数	1 戸	
	高度省エネ型(認定低炭素住宅)						
	採択戸数	1 戸	交付申請戸数	2 戸	完了実績(竣工予定含む)戸数	2 戸	
	高度省エネ型(性能向上計画認定住宅)						
	採択戸数	1 戸	交付申請戸数	0 戸	完了実績(竣工予定含む)戸数	0 戸	
高度省エネ型(ゼロ・エネルギー住宅)							
採択戸数	3 戸	交付申請戸数	2 戸	完了実績(竣工予定含む)戸数	2 戸		
優良建築物型							
採択棟数	0 棟	交付申請戸数	0 棟	完了実績(竣工予定含む)棟数	0 戸		
採択床面積	m ²	交付申請床面積	m ²	完了実績(竣工予定含む)床面積	m ²		

1. 地域型住宅の名称・対象地域(必須)	(地域型住宅の名称) 京都ウッドマイレージ住宅	(地域型住宅供給対象地域) 京都府及び隣接府県
2. グループの名称・結成年(必須)	(グループの名称) Made in Kyoto 住宅研究会	(結成年) 2012 年
3. 過去のグリーン化事業採択グループ番号(必須)	06-0194-0515	

4. 地域型住宅グリーン化事業のねらいに対する取り組み ※記入した内容において「必ず実施する取組み」の場合は◎印、「グループが目指す目標」の場合は○印を右欄に記入してください。
※住宅と建築物(非住宅)の両方を申請する場合において、取組に違いがある場合は、その旨を具体的に記入してください。

ア. 特徴ある地域型住宅の目標設定

【平成30年度対応方針】	◎、○ 記入欄
①地域の気候・風土等に根差した地域型住宅の重視する性能	◎
②地域の気候・風土等に根差した地域型住宅の建て方や様式	◎
③地域の気候・風土等に根差した地域型住宅のデザインルール	◎
④①～③の背景	◎
⑤その他 ※上記項目以外でグループ独自のルール・目標があれば記入してください。	◎

イ. 効率的で適切な就業環境が確保された住宅生産体制の整備

【平成30年度対応方針】	◎、○ 記入欄
a	
①-1 用材の寸法規格化	■ 行っていない □ 行っている → 内容:
①-2 使用建材の統一	□ 行っていない ■ 行っている → 内容: 主要構造材については工場プレカットを必須とすることで仕様の統一を図るとともに、端材リサイクルや施工中に発生する産廃・騒音の低減を図る。
①-3 標準仕様の設定	□ 行っていない ■ 行っている → 内容: 共通ルールに基づく建材を標準仕様とする。(遮熱シート、複層LOW-Eガラス、調湿竹炭等)
②-1 建材・資材調達のコスト削減	□ 行っていない ■ 行っている → 内容: 製作・在庫など流通の効率化と数量のスケールメリットを活かした建築コストの削減のため、グループの資材仕様の共通化に努める。
②-2 調達事務の合理化	□ 行っていない ■ 行っている → 内容: 受発注・在庫など合理化のため、グループの資材仕様の共通化に努める。
③ 生産の合理化等に向けた検討委員会等の設置	□ 行っていない ■ 行っている → 内容: 供給体制を安定して長期にわたり維持できる体制を構築するため委員会活動を活発に行う。(年2回)
④ 生産の合理化等に向けて事務局が果たす役割	□ ない ■ ある → 内容: (事務局が)委員会と連携し、構成員である流通事業者や資材メーカーとの交渉・協力により仕入価格の低減を図る。
b	
① グループの信頼性向上に向けた施工基準	□ ない ■ ある → 内容: 各グループ事業者構成員(職人含む)の知識・技術・サービス力向上と情報共有化を図るため、研修会を随時開催。(事務局が状況確認、活動内容を広報する)
② グループの信頼性向上に向けた検査ルール	□ ない ■ ある → 内容: 地域型住宅共通ルールに基づく規格・仕様の実効性を確保するため、第三者評価機関による適合証を受ける。(評価機関確認書発行・施工主への提出・住宅履歴情報蓄積)
③ グループの信頼性向上に向けた見積・積算のルール	□ ない ■ ある → 内容: 概算見積ではなく詳細見積を原則とし、お客様に分かり易い提案書を標準とする。
④ グループの信頼性向上に向けたその他の具体的取組	□ ない ■ ある → 内容: 地域型住宅の概要・標準仕様と受注活動～契約～工事～お引渡～維持管理までの流れ・各種手続き等がわかるパンフレットを作成、施工主へ説明する。
c	
① 週休2日制の導入の取組	□ ない ■ ある → 内容: 労働環境を見直し、労働力確保の観点から週休2日制導入を呼びかける。
② 技能や経験にふさわしい処遇の実現に向けた取組	□ ない ■ ある → 内容: 技能、経験年数に応じた処遇と、資格取得やスキルアップなどの人事評価の見える化を呼びかける。
③ 社会保険への加入	□ ない ■ ある → 内容: 社会保険加入で人材確保や万一の備えを呼びかける。
④ 安全及び健康の確保のための取組	□ ない ■ ある → 内容: 現場ルールの見直しや、健康診断の受診を呼びかける。
その他 ※上記項目以外でグループ独自のルール・目標があれば記入してください。	◎

※) 行の高さについては記載する文章の長さなどにより適宜、調整して下さい。

1. 地域型住宅の名称・対象地域(必須)	(地域型住宅の名称) 京都ウッドマイレージ住宅	(地域型住宅供給対象地域) 京都府及び隣接府県
2. グループの名称・結成年月(必須)	(グループの名称) Made in Kyoto 住宅研究会	(結成年) 2012 年
3. 過去のブランド化事業採択グループ番号(必須)	06-0194-0515	

4. 地域型住宅グリーン化事業のねらいに対する取り組み ※記入した内容において「必ず実施する取組み」の場合は◎印、「グループが目指す目標」の場合は○印を右欄に記入してください。
※住宅と建築物(非住宅)の両方を申請する場合において、取組に違いがある場合は、その旨を具体的に記入してください。

ウ. 長期にわたる住宅メンテナンス体制の整備

【平成30年度対応方針】			◎、○ 記入欄	
a	① 住宅履歴情報の蓄積	①-1 内容・蓄積の共通ルール	<input type="checkbox"/> ない <input checked="" type="checkbox"/> ある → 内容: ・長期優良住宅については設計図書保管・履歴更新と定期点検や維持管理が確実に継続されるため、実行ルールを定める。	◎
		①-2 情報サービス機関の活用	<input type="checkbox"/> ない <input checked="" type="checkbox"/> ある → 内容: ・長期優良住宅については情報サービス機関による履歴管理システムの利用。	◎
		①-3 履歴情報蓄積の確認手法	<input type="checkbox"/> ない <input checked="" type="checkbox"/> ある → 内容: ・長期優良住宅については事務局は施工者に情報蓄積の確認に努める。	○
	② メンテナンス基準	②-1 点検の共通ルール	<input type="checkbox"/> ない <input checked="" type="checkbox"/> ある → 内容: ・長期優良住宅については維持管理点検チェックリストを作成し、運用ルールを定め実行する。また、施主様に住宅履歴情報システムの利用を薦める。	◎
		②-2 補修の共通ルール	<input type="checkbox"/> ない <input checked="" type="checkbox"/> ある → 内容: ・長期優良住宅についてはお施主様の維持管理と修繕に対する認識を高めるために、維持管理点検チェックリストにより管理修繕計画を説明する。	◎
		②-3 点検補修実施の確認手法	<input type="checkbox"/> ない <input checked="" type="checkbox"/> ある → 内容: ・定期点検実施後施工者は事務局に報告するように努める。	○
	③ 住まいの管理	③-1 住まい管理勉強会の実施	<input type="checkbox"/> ない <input checked="" type="checkbox"/> ある → 内容: ・施工者に対し維持管理と修繕に対する認識を高める勉強会を行い維持管理修繕計画の重要性を確認する。	◎
		③-2 DIY体験会等の実施	<input checked="" type="checkbox"/> ない <input type="checkbox"/> ある → 内容:	
		③-3 その他の相談会等の実施	<input type="checkbox"/> ない <input checked="" type="checkbox"/> ある → 内容: ・お施主様の維持管理と修繕に対する認識を高めるためにチラシ等で案内する。	◎
	④ 維持管理委員会等の設置	<input type="checkbox"/> ない <input checked="" type="checkbox"/> ある → 内容: ・維持管理検討委員会で工務店向けの維持管理研修を行う。	◎	
⑤ その他の維持管理の手法	<input checked="" type="checkbox"/> ない <input type="checkbox"/> ある → 内容:			
b	① グループ構成員の倒産廃業時のバックアップルール	<input type="checkbox"/> ない <input checked="" type="checkbox"/> ある → 内容: ・不測事態(グループ事業者の廃業・自然災害時など) 対応のため、グループ事業者相互のサポート体制を定め、定期的に相互確認をする。	◎	
	② 過去の瑕疵内容等に学ぶ勉強会の実施	<input type="checkbox"/> ない <input checked="" type="checkbox"/> ある → 内容: 維持管理勉強会の中で瑕疵事例内容を紹介する。	◎	
その他 ※上記項目以外でグループ独自のルール・目標があれば記入してください。		・グループ事業者全体が利用できる経営的な相談窓口(建設に関わる制度や法務・労務・税理・保険など)を設け、経営力の向上をサポートする。		○

エ. グループの技術力の向上

【平成30年度対応方針】			◎、○ 記入欄	
a	① 未経験工務店等への施工技術研修会等の開催	<input type="checkbox"/> ない <input checked="" type="checkbox"/> ある → 内容: ・省エネQ-対策・耐震対策など、知識と技術を高める研修会をグループ内外で実施する。	◎	
	②-1 品質管理のための共通ルール	<input type="checkbox"/> ない <input checked="" type="checkbox"/> ある → 内容: 確認申請、瑕疵保険等のルールを順守し現場管理を徹底する。	◎	
	②-2 上記共通ルールが守られていることの確認手法	<input type="checkbox"/> ない <input checked="" type="checkbox"/> ある → 内容: 各検査による確認。	◎	
	③-1 需給計画の策定	<input type="checkbox"/> ない <input checked="" type="checkbox"/> ある → 内容: ・グループ施工店の目標棟数を掲げ受注活動を事務局が中心となりサポートしていく。	◎	
	③-2 技術力向上のための中長期的な計画	<input type="checkbox"/> ない <input checked="" type="checkbox"/> ある → 内容: ・省エネ基準、長期優良住宅基準、低炭素住宅などについて研修会を開催するとともに、WEB上でも内容公開することで工務店のレベルアップを図る。	◎	
	④ ③に基づく業種ごとの合理化の取組	<input type="checkbox"/> ない <input checked="" type="checkbox"/> ある → 内容: ・施工店の着工情報を流通が共有し技術力向上の研修会を開催	◎	
	b	①-1 省エネ技術講習会への施工事業者社員の参加人数	昨年度までの終了者数 32 今年度の参加目標人数 18	◎
①-2 省エネ技術講習会への請負技能者等の参加人数		昨年度までの終了者数 10 今年度の参加目標人数 3	◎	
② 省エネ技術講習会への参加促進のための取組		<input type="checkbox"/> ない <input checked="" type="checkbox"/> ある → 内容: ・省エネQ-技術者講習会の開催日程等を案内し、強く参加を呼び掛ける。	◎	
c	① 新たな技術等の導入	<input type="checkbox"/> ない <input checked="" type="checkbox"/> ある → 内容: ・新商品案内や新しい技術の紹介を情報誌としてグループのホームページに掲載する。	○	
	② 新たな技術等の開発	<input type="checkbox"/> ない <input checked="" type="checkbox"/> ある → 内容: ・新技術導入施工者の実例をグループのホームページに掲載する。	○	
その他 ※上記項目以外でグループ独自のルール・目標があれば記入してください。		・住宅ローン(フラット35)や補助金についての案内パンフの作成し、工務店向け勉強会を積極的に開催する。 ・BELSIによる性能表示制度の普及に努める。		◎

※) 行の高さについては記載する文章の長さなどにより適宜、調整して下さい。

1. 地域型住宅の名称・対象地域(必須)	(地域型住宅の名称) 京都ウッドマイレージ住宅	(地域型住宅供給対象地域) 京都府及び隣接府県												
2. グループの名称・結成年月(必須)	(グループの名称) Made in Kyoto 住宅研究会	(結成年) 2012 年												
3. 過去のブランド化事業採択グループ番号(必須)	06-0194-0515													
4. 地域型住宅グリーン化事業のねらいに対する取り組み ※記入した内容において「必ず実施する取組み」の場合は◎印、「グループが目指す目標」の場合は○印を右欄に記入してください。 ※住宅と建築物(非住宅)の両方を申請する場合において、取組に違いがある場合は、その旨を具体的に記入してください。														
オ. 地域の産業・住文化・景観等への寄与														
【平成30年度対応方針】 ◎、○ 記入欄														
a	① 地域材利用に関する共通ルール(必須)	・主要構造材(柱・梁・桁・土台)は合法木材または京都府産材(ウッドマイレージの表示)を50%以上使用。 ・羽柄材(筋交・垂木・間柱・根太)は合法木材または京都府産材(ウッドマイレージの表示)を50%以上使用。												
	② 地域材利用の1棟当たりの割合(必須)	<input type="checkbox"/> 50%未満 <input checked="" type="checkbox"/> 50%以上 <input type="checkbox"/> 80%以上												
	③ 標準的な地域材の使用部位(必須)	<table border="1"> <tr> <td>主要構造材</td> <td>土台: <input type="checkbox"/> 使用していない <input checked="" type="checkbox"/> 使用している</td> </tr> <tr> <td></td> <td>柱: <input type="checkbox"/> 使用していない <input checked="" type="checkbox"/> 使用している</td> </tr> <tr> <td></td> <td>梁・桁等の横架材等: <input type="checkbox"/> 使用していない <input checked="" type="checkbox"/> 使用している</td> </tr> <tr> <td>羽柄材</td> <td>間柱、根太、垂木等: <input type="checkbox"/> 使用していない <input checked="" type="checkbox"/> 使用している</td> </tr> <tr> <td>造作材</td> <td>枠材、廻縁等: <input checked="" type="checkbox"/> 使用していない <input type="checkbox"/> 使用している</td> </tr> <tr> <td>板材</td> <td>壁板、床板等: <input checked="" type="checkbox"/> 使用していない <input type="checkbox"/> 使用している</td> </tr> </table>	主要構造材	土台: <input type="checkbox"/> 使用していない <input checked="" type="checkbox"/> 使用している		柱: <input type="checkbox"/> 使用していない <input checked="" type="checkbox"/> 使用している		梁・桁等の横架材等: <input type="checkbox"/> 使用していない <input checked="" type="checkbox"/> 使用している	羽柄材	間柱、根太、垂木等: <input type="checkbox"/> 使用していない <input checked="" type="checkbox"/> 使用している	造作材	枠材、廻縁等: <input checked="" type="checkbox"/> 使用していない <input type="checkbox"/> 使用している	板材	壁板、床板等: <input checked="" type="checkbox"/> 使用していない <input type="checkbox"/> 使用している
主要構造材	土台: <input type="checkbox"/> 使用していない <input checked="" type="checkbox"/> 使用している													
	柱: <input type="checkbox"/> 使用していない <input checked="" type="checkbox"/> 使用している													
	梁・桁等の横架材等: <input type="checkbox"/> 使用していない <input checked="" type="checkbox"/> 使用している													
羽柄材	間柱、根太、垂木等: <input type="checkbox"/> 使用していない <input checked="" type="checkbox"/> 使用している													
造作材	枠材、廻縁等: <input checked="" type="checkbox"/> 使用していない <input type="checkbox"/> 使用している													
板材	壁板、床板等: <input checked="" type="checkbox"/> 使用していない <input type="checkbox"/> 使用している													
	④ 地域材の流れ(フロー図)などグループの取組に関する補足説明	<p>京都府地球温暖化防</p>												
b	①-1 地域材在庫把握の仕組	<input checked="" type="checkbox"/> ない <input type="checkbox"/> ある → 内容:												
	①-2 地域材価格の共有の仕組	<input checked="" type="checkbox"/> ない <input type="checkbox"/> ある → 内容:												
	② グループ全体における地域材の需給予測	<input checked="" type="checkbox"/> 行っていない <input type="checkbox"/> 行っている → 内容:												
c	①-1 畳の活用	<input checked="" type="checkbox"/> 行っていない <input type="checkbox"/> 行っている → 内容:												
	①-2 和瓦の活用	<input checked="" type="checkbox"/> 行っていない <input type="checkbox"/> 行っている → 内容:												
	①-3 襖の活用	<input checked="" type="checkbox"/> 行っていない <input type="checkbox"/> 行っている → 内容:												
	①-4 障子の活用	<input checked="" type="checkbox"/> 行っていない <input type="checkbox"/> 行っている → 内容:												
	②-1 その他地域の伝統的な素材の活用	<input type="checkbox"/> 行っていない <input checked="" type="checkbox"/> 行っている → 内容: 京都府下の伝統工芸品(清水焼・黒谷和紙・北山丸太・京竹炭などから一点以上)を内外装や設備として標準採用する。												
	②-2 その他地域の伝統的な意匠の活用	<input type="checkbox"/> 行っていない <input checked="" type="checkbox"/> 行っている → 内容: 京都府下の伝統工芸品(清水焼・黒谷和紙・北山丸太・京竹炭などから一点以上)を内外装や設備として標準採用する。												
d	① 地域の伝統的なデザインを継承する取組	<input type="checkbox"/> 行っていない <input checked="" type="checkbox"/> 行っている → 内容: ・自主景観ガイドラインを策定し景観条例のない地域でも、周辺環境街並にも調和を図る。												
	② 地域の住まい方の継承につながる取組	<input type="checkbox"/> 行っていない <input checked="" type="checkbox"/> 行っている → 内容: ・次世代に継承できるよう長期に亘る維持管理の促進をする為お施主様にホームページにてPRする。												
	③ 地域の街並み形成へ寄与する取組	<input type="checkbox"/> 行っていない <input checked="" type="checkbox"/> 行っている → 内容: ・自主景観ガイドラインを策定し景観条例のない地域でも、周辺環境街並にも調和を図る。												
	④ 和の住まいの要素を取り入れた取組	<input checked="" type="checkbox"/> 行っていない <input type="checkbox"/> 行っている → 内容: ・特に規定せず、意匠や施主の趣向による												
	その他 ※上記項目以外でグループ独自のルール・目標があれば記入してください。	京都府産材を推奨し採用した住宅においては「京都府産材証明書及びウッドマイレージCO2計算書」を取得する。(ウッドマイレージCO2認証制度で京都の木であることが証明された木材の、より詳しい生産地の流通履歴を調べ、証明し、また、流通過程で排出されたCO2量(および全国平均値との比較によるCO2排出量)をウッドマイレージCO2という環境指標をもとに算出し、証書として発行するものです)												
カ. その他														
【平成30年度対応方針】 ◎、○ 記入欄														
	東日本大震災の復興に資する取組	・復興支援の為(展示会、イベント等での利用とともに、)特産品購入を呼び掛ける。												
	平成28年熊本地震の復興に資する取組	・復興支援の為(展示会、イベント等での利用とともに、)特産品購入を呼び掛ける。												

※) 行の高さについては記載する文章の長さなどにより適宜、調整して下さい。

1. 地域型住宅の名称・対象地域 (必須)	<small>(地域型住宅の名称)</small> 京都ウッドマイレージ住宅	<small>(地域型住宅供給対象地域)</small> 京都府及び隣接府県
2. グループの名称・結成年月 (必須)	<small>(グループの名称)</small> Made in Kyoto 住宅研究会	<small>(結成年)</small> 2012 年
3. 過去のブランド化事業採択グループ番号 (必須)	06-0194-0515	
4. 地域型住宅グリーン化事業のねらいに対する取り組み		
キ. グループが取組む木造住宅・建築物の特徴 ※この項目は、高度省エネ型、優良建築物型を申請するグループのみ記入してください。 ※申請に係る認定低炭素住宅、性能向上計画認定住宅、ゼロ・エネルギー住宅、優良建築物の性能や特徴等について記入してください。		
1) 認定低炭素住宅の特徴 ・京都の気候や町並みをにあって認定低炭素住宅を推進する。 ・一次エネルギー消費量10%以上の削減とし、高効率給湯器を標準仕様とする。 ・選択的項目では木造住宅、節水機器を標準とし、雨水タンクの設置を推奨する。 2) 性能向上計画認定住宅の特徴 ・建築物省エネ法に準拠する住宅仕様としており、一次エネルギー消費量の削減については10%以上とする。 ・設備機器については、省エネ性の高い機器の設置を推奨しており、高効率給湯器を標準仕様とする。 3) ゼロエネルギー住宅の特徴 ・ゼロエネルギー住宅については仕様モデルによる目標値を設定する。 5地域 UA値0.6 R値103% R0値 25% 6地域 UA値0.6 R値101% R0値 25% 第3者機関によるBELS表示を必須とし施工主に内容説明を行う。		

※) 行の高さについては記載する文章の長さなどにより適宜、調整して下さい。